

第三講 大城論文：「古代エジプト文化の揺籃期について」 168～184 頁

文化=他地域の影響から脱し、独自のものを創造する (168)

古代エジプト文明は、紀元前 3000 年頃から 2600 年頃にかけてその文化の基礎を確立 (168)

周辺地域からの情報が途絶え、文化的にも孤立していた時期が存在 (168)

古代エジプト人独特の美術様式の表現方法 (168) = 横向けの顔と腰に正面向けの目と肩、胸。左足を前に出し、腕は両脇に硬くついている。
エジプト人の思考形態 (168) = 魂の不滅とマアト

古代エジプト美術の萌芽：第 1 王朝出現直前 (169)

メソポタミアの影響：二頭のライオンを支配する英雄

一対の首の長い動物画お互いの首を絡ませる

建築：第 1 王朝成立前後の時期 (170)

王宮のファサード様式の壁がんのウルクの神殿の壁面 (170)

東方から下エジプトを通るルート (171) = シナイ・ルート

王宮ファサードの起源：メソポタミア説とヌビア説 (171)

王宮ファサードとセレク (王名柁)：172 頁図 1 「ジェト王のセレク」

塔：ジェムデトナスル期のメソポタミアの王宮ファサード (171)

マスタバ墓の建築資材：第 3 王朝期に日干し煉瓦から石材に (171)

文字 (ヒエログリフ)：シュメールの絵文字から「言語は図式的に表現できる」という概念 (171)

第 0 王朝時代から知られていた (173)

ウンム・エル=カアブ出土のラベル：文字の使用

どのような過程で古代エジプト文化は形成されたのか (173)

= 外部世界との交流の断絶

ラピス・ラズリ：アフガニスタン・バダクシャン州原産 (174)

先王朝期から全王朝時代を通じて輸入。しかし、第 1 王朝終盤から第 3 王朝の終わりにかけて出土例なし (174)

モチーフや建築様式：メソポタミア特有

第1王朝成立直前に現れ、第1王朝半ばで消滅（174）

ヌビア A グループ文化

エジプトやパレスティナからの輸入土器（175）

ファラオニック・イコノグラフィー：バーク船・王宮ファサード・

王と白冠・ホルスとセレク・ローゼット文様（175）

第1王朝成立前後の時期にエジプトとヌビアとの交流の証拠（175）

↓

外部世界からエジプトへともたらされた影響には減少期・中断期が存在（176）

パレスティナからの輸入土器：

エジプトで出土する前期青銅器時代の土器

①赤色磨研土器：第1王朝ジェル王からカア王までの時期と第4王朝から第5王朝のサフラー王までの時期に出土

②格子紋土器：第1王朝初期

③彩紋土器：第1王朝デン王からカア王までと古王国期に出土

④メタリック土器：第1王朝期と古王国時代、特に第5王朝と第6王朝に出土

パレスティナからの輸入土器は第2王朝期と第3王朝期殻はほとんど発見されておらず→交流の中断期がみられる（177）

パレスティナにおけるエジプトの影響を受けた土器の出土

前期青銅器時代Ⅱ期の途中から前期青銅器時代Ⅲ期にかけての時期の欠如＝第2王朝期～第3王朝期（178）

第1王朝成立直前の域に外部世界からの文化的影響を受けていたエジプトは、それらの影響の下、ナルメル王のパレットに見られるごとく一定の文化水準に達していた。しかしながら、その後外部世界との接触が途絶える。この空白の時期にエジプトは外部の影響から孤立し、自然と鎖国状態に陥ったのである。その結果、エジプトは、それまでに受けていた外部世界からの情報を

自らの文化に適合するように整形した (179)